

小松真一(1921-1973)「慮人日記」1975筑摩書房		山本 頁	公平敗因
1	精兵主義の軍隊に精兵がいなかった事。然るに作戦その他で兵に要求される事は、総て精兵でなければできない仕事ばかりだった。武器も与えずに。米国は物量に物言わせ、未訓練兵でもできる作戦をやってきた	73,94,183	
2	物量、物資、資源、総て米国に比べ問題にならなかった	80,197	10
3	日本の不合理性、米国の合理性し	272	
4	将兵の素質低下(精兵は満州、支那事変と緒戦で大部分は死んでしまった)	184	
5	精神的に弱かった(一枚看板の大和魂も戦い不利となるとさっぱり威力なし)	247	
6	日本の学問は実用化せず、米国の学問は実用化する	247	16
7	基礎科学の研究をしなかった事	247	16
8	電波兵器の劣等(物理学貧弱)		16
9	克己心の欠如		
10	反省力なき事	202,149	3
11	個人としての修養をしていない事	272	
12	陸海軍の不協力	152,169	17,19
13	1人よがりて同情心が無い事	124	
14	兵器の劣悪を自覚し、負け癖がついた事		
15	バシー海峡の損害と、戦意喪失	35	20,13,05,1
16	思想的に徹底したものがなかった事	247,287	
17	国民が戦いに厭きていた	152	
18	日本文化の確立なき為	124	
19	日本は人命を粗末にし、米国は大切にした	225	20
20	日本文化に普遍性なき為	124	
21	指導者に生物学的常識がなかった事	225	5

